

「がん統合医療の実際と新たなる展開」

2011年9月4日（日）、東京都千代田区の東京国際フォーラムG701において「がん統合医療の実際と新たなる展開」と題された講演会が開催された。今回の講演会を主催したLLP漢方研究有識者会は、約3万人の会員を有する非営利組織である。同会は、会員のQOL（生活の質）の向上を目指し、会員相互が漢方研究に関する情報交換を行ったり、医師や学者などを招いての講演会・セミナーなどを催したりして、患者さんにトータルな健康情報を提供し続けている。今回の講演会（後援：株式会社クリピュア）もその一環で、3人の医師による講演が行われた。

天仙液による臨床試験の報告

郭文宏 国立台湾大学附属医学院主任医師・臨床准教授

この日のプログラムは、LLP漢方研究有識者会の代表・武本和枝氏の開会挨拶でスタートした。その挨拶のなかでは、LLP漢方研究有識者会の活動内容や、同会が2011年12月から特定非営利法人に認可予定であることが発表された。武本氏は「来年からはNPO法人漢方研究有識者会として活動を始め、より健康社会に役立つ活動をしてまいります」と話を結んだ。

この日のプログラムは、LLP漢方研究有識者会の代表・武本和枝氏の開会挨拶でスタートした。その挨拶のなかでは、LLP漢方研究有識者会の活動内容や、同会が2011年12月から特定非営利法人に認可予定であることが発表された。武本氏は「来年からはNPO法人漢方研究有識者会として活動を始め、より健康社会に役立つ活動をしてまいります」と話を結んだ。

講演でトップを飾ったのは、国立台湾大学付属医学院の主任医師・臨床准教授を務める郭文宏氏。郭氏は外科の専門家であり、とりわけ乳癌外科の第一人者として活躍している。郭医師は、国立台湾大学付属医学院に入院中の末期の乳がん患者さんを対象に、同院では漢方薬として初めての試みとなる「天仙液による臨床試験」を実施。今回の講演では、その臨床試験の結果などを包含した「天仙液による臨床試験の報告」をテーマに話を展開させた。

講演でトップを飾ったのは、国立台湾大学付属医学院の主任医師・臨床准教授を務める郭文宏氏。郭氏は外科の専門家であり、とりわけ乳癌外科の第一人者として活躍している。郭医師は、国立台湾大学付属医学院に入院中の末期の乳がん患者さんを対象に、同院では漢方薬として初めての試みとなる「天仙液による臨床試験」を実施。今回の講演では、その臨床試験の結果などを包含した「天仙液による臨床試験の報告」をテーマに話を展開させた。

その概要は次のようなものであった。私は日本が大好きである。その日本において、抗がん漢方薬である天仙液は、供給されて18年間という実績があり、日本の研究機関の権威として知られる新薬開発研究所で厳密な抗腫瘍作用が実証されている。また、天仙液は、世界各国で100万人以上のがん患者さんが使用し、かなりよい実績を上げている。

今回の臨床試験は、天仙液を服用した治療群と、服用しなかった対照群を比較する二重盲検試験（真薬と偽薬を投与する2つの被験者グループを用意し、それぞれの被験者には真薬か偽薬かを知らせずに実施する。その際、試験者の挙動などが被験者に影響を与えないのを避けるため、試験の直接の実施者にも真薬・偽薬の区別を知らせずに行う）である。

の44人には転移が認められていて、複数の部位に転移が認められている人も少なくなかった。転移した部位としては骨がもつとも多く、次いで肝臓、肺、脳であった。

今回の臨床試験では、「天仙液を服用することで、どの程度、病気やQOL、免疫機能が改善されるのか？」を研究することが主たる目的になっている。治療群において天仙液を服用した期間は、6カ月継続が13人、5カ月継続が4人、4カ月継続が1人、3カ月継続が2人、2カ月継続が6人、1カ月以内の継続が4人であった。それに対し、対照群におけるプラセボの投与期間は、2カ月以上の継続が0人、2カ月継続が4人、2カ月以内の継続が3人、1カ月以下の継続が6人、死亡が1人であった。結果的には、2カ月以上継続して臨床試験に参加した患者さんの数は、治療群が20人、対照群が0人であった。

その概要は次のようなものであった。私は日本が大好きである。その日本において、抗がん漢方薬である天仙液は、供給されて18年間という実績があり、日本の研究機関の権威として知られる新薬開発研究所で厳密な抗腫瘍作用が実証されている。また、天仙液は、世界各国で100万人以上のがん患者さんが使用し、かなりよい実績を上げている。



天仙液の臨床試験の目的や結果について話す郭文宏医師

また、「QOLの評価」として、臨床試験に参加した患者さんに「過去1週間以内に、健康・QOLの改善を実感したか？」という質問をしたところ、対照群では14人中14人（100%）が「そのような改善を実感していない」と答えたのに対し、治療群では30人中20人（66・7%）が「そのような改善を実感した」と答えた。

LLP 漢方研究有識者会

「講演会」や「天仙液」に関する情報提供や資料に関する問い合わせも行っている。

フリーダイヤル：0120-961-962

TEL：03-6661-6721 FAX：03-6661-6722



多くの聴講者が、有意義な講演に耳を傾けていた

も塊に見える。しかし、がんは、1個1個の小さながん細胞が集まりである。だから、がんは細胞の病気で

あること。がんは、がん細胞がどんどん分裂・増殖することで大きくなるが、臨床で見つかるがんは、だいたい1cmほどになつてからである。1cmほどの大きさのがんのなかには、10億個のがん細胞があるとされている。つまり、がん細胞が1000個あっても、1万個あっても、見つかることは困難である。がん細胞が生まれて人の命を奪うまで、だいたい10年かかると言われている。つまり、がんは、昨日や今日にできたものではない、ということだ。したがって、一般的にはがんの告知を受けてがん患者の仲間入りをするが、腫瘍学にはそのずっと前から「がん患者」ということになる。

考え方を変えると、数年前から体内にがんはあったわけなので、がん

がんになつてもあわてない・あせらない

三好立 銀座並木通りクリニック院長



がんの休眠療法などについて講演する三好医師

を考えたうえで、治療戦略を立てるべきである。

がんは、がん細胞がどんどん分裂・

増殖することで大きくなるが、臨床で見つかるがんは、だいたい1cmほどになつてからである。1cmほどの大きさのがんのなかには、10億個のがん細胞があるとされている。つまり、がん細胞が1000個あっても、1万個あっても、見つかることは困難である。

「天仙液」の世界的な研究成果と高い評価の報告

孫答献 北京振国腫瘍病院副院長

の告知を受けたからといってあわてず、あせらず、治療法の中身をよく吟味すべきである。もちろん、い

つまでもがんを放っておけというのではなく、治療方針に納得したら、迅速に行動すべきである。」

休憩時間を挟み、最後の講演が行われた。演者は、北京振国中西医結合腫瘍病院副院長であり、アメリカ自然医学会自然医学医師など、数多くの肩書を持つ孫答献氏であった。孫医師は「天仙液」の世界的な研究成果と高い評価の報告」というタイトルを付与した話を披露した。

（抗がん漢方薬である天仙液の世界的な研究成果は、いくつもある。まず、世界で初めてアメリカ国家衛生院臨床試験センターから認可され、

国家衛生院臨床試験センターから、天仙液が10種のがんに対し、顕著な抗がん効果があると認められた。

国立医学機関である台湾大学付属医学院において、正式に末期乳がんに関するヒト臨床試験が実施された抗がん漢方薬だということ。2つ目は、その末期乳がんの患者さんに対し、有効率が66・7%であったこと。3つ目は、近年、20項目以上の化学的

以上の結果から、天仙液は世界的に最も安全性があり、有効性が高く、治療費が経済的で、ヒト臨床試験でも実証された抗がん漢方薬であるということが言える。）



孫医師は、「天仙液」の研究成果などを中心に講演した

講演終了後は、天仙液についての質疑応答の時間が設けられ、「天仙液」の研究者としても知られている孫医師が、来場者からの質疑に対し応答した。「再発予防にも天仙液は効果があるのか」、「量は、どのくらい飲んだらいいのか」、「(天仙液が)効いているかどうかの見極めはどのくらい飲んでから決めたらいのか」など、会場からは多くの質問が寄せられた。

講演「天仙液による臨床試験の報告」終了後、郭文宏氏の記者会見が開かれる

「がん統合医療の実際と新たな展開」の講演会で「天仙液による臨床試験の報告」をテーマに話を繰り広げた郭文宏氏は、講演終了後、東京国際フォーラムのG 701 からG 503 号室へ移動して記者会見に臨んだ。会見場には10人を超える記者やカメラマンが集まり、黄玉玲氏による司会進行で、会見は始まった。



郭医師と通訳を務めた神崎氏

重ねた試験によって、天仙液の効果が実証された

記者会見では、サンケイ・セセンタ、サンケイ・ビジネスアイ、日刊スポーツなどのほか、がんの専門誌を発行する2社の記者からさまざまな質問が寄せられた。なかには漢方薬や代替療法に関する質問もあり、

「台湾における漢方療法と代替療法の定義について申しますと、漢方薬や生薬などは代替療法に含まれません。それ以外にも、気功や鍼治療といったものが、代替療法と言われています。」

「台湾では、漢方療法と代替療法は区別されているのか?」「日本では、クリニックによっては、主治医が行う西洋医療にプラスして代替療法が併用されることがあるが、台湾ではどうなのか?」といった質問もあった。

現在の台湾における医療の現状からすれば、代替療法は必ずしもすべての患者さんに認められているわけでもないし、信用していない医師も少なくないと思っています。しかし、そのような「認められない・信用されない」という事実に対し、私たちは代替療法が臨床的に効果のある治療法であるということを実証してい

かなければいけません。その意味で、私たちは、日々、努力を重ねているのです。

私が主任医師を務める台湾大学付属医学院では、入院している患者さんに対し、あまり代替療法を用いていません。しかし、末期のがん患者さんには、従来の一般的な治療法は、あまり通用しないと考えています。そして、半分以上のがん患者さんが、可能であるならば、代替療法を受けたいことを希望されているのです。私たちは、そのような期待に応えたいと思っています。」

そして、記者席からは「天仙液の臨床効果は、どのようなものですか?」というダイレクトな質問も投げかけられた。

その質問に対し、郭氏は次のような回答をした。

「今回、私たちが行ったのは、末期の乳がんの患者さんに対して天仙液を治療に用いた臨床試験です。この



会場 (G701) の外には、「天仙液」に関するパネルも展示されていた



マスコミの質問に、説得力のある回答を提示する郭医師

臨床試験の結果は、私たちの予想を超える素晴らしいものでした。副作用を生じないという状況のもと、患者さん一人ひとりのQOL(生活の質)を向上させ、免疫力もアップさせることができましたと考えています」

また、新薬開発研究所において行われたマウスを用いた天仙液の経口投与試験では、天仙液の高い抗がん効果が実証されたという。加えて、天仙液の摂取量が増えるほどに、その抗がん効果が強くなることも確認されたそうだ。

LIP 漢方研究有識者会

「講演会」や「天仙液」に関する情報提供や資料に関する問い合わせも行ってください。

フリーダイヤル: 0120-9611-962
TEL: 03-6661-6721
FAX: 03-6661-6721